

生産者としての思いは

〔水産部会 青木鶴市さん〕

わかめの出荷を主にやっています。

わかめは寒い時期でなければなりません。朝4時からの作業は体力仕事です。非常に大変です。

他県にも引けをとらない品質ですし、全国的にも乾燥わかめは多くないです。

これからも品質の高いわかめを皆さんに届けたいです。



青木さん

〔穀物部会 真島英雄さん〕

平成26年頃から公社と関わり、特別栽培米というものを初めて聞きました。

それから本格的に米づくりを始めました。

現在はふるさと納税の返礼品としても出荷しています。

生産者は消費者の声を聞くことは

少ないかもしれないが、ある日「おいしかったので送ってください」と電話がかかってきました。これからの意欲につながりました。



真島さん

今後に望むことは

〔河村さん〕

農家の元気も無くなってきているように感じます。道の駅の集客にも課題はあるように思います。



店内に並ぶ新鮮な野菜

出荷する農家もメリットがなければならぬと思います。

よい知恵を出していかなければなりません。将来のために、町も議会も今一度、よく考えてもらいたいです。

〔角田さん〕

道の駅は大山町の顔だと思いません。

大山町の魅力をもっと発信できるような仕組み作りが必要と考えます。



色とりどりの花苗

〔真島さん〕

昼のランチに大山そばを食べられるようにしてみてもどうでしょうか。

大山と名の付く食の提供を考えてみたらよいと考えます。

〔金田事務局長〕

町内の人が自慢できるような道の駅にしていきたいです。

10周年を盛大に飾りたいと考えています。

取材を終えて

大山ブランドへの誇りや、高い品質の生産品を消費者の元へ届けたいという熱意が伝わってきた。

高齢化の背景や担い手不足といった課題、定年後に農業を楽しめるようなまちづくりの必要性もあらためて感じた。

大山恵みの里公社と、4月4日に10周年を迎える道の駅のこれからに期待をしたい。



10歳を迎える道の駅